

# 背景 ～なぜ今、有料化なのか～

## 暮らしを支える公共施設を維持するために

- 公共施設を安心して利用できる環境とサービスの提供を維持していくためには、今後、施設の大規模な改修や建て替えなどが必要です。



## 将来へ向けた転換期を迎えています

- 公共施設には、行政運営や市民生活に不可欠な施設から選択的に利用される施設まで様々あり、全てを一律に取り扱うことは、適切ではありません。
- 将来的な人口減少や少子高齢化を見据えて、今から財源の確保などの対策をしていくことが必要です。

## 税金で賄う維持費の一部を利用者の負担へ

- 公共施設の維持管理費は、大部分が公費(税金)で賄われています。
- 駐車場は選択的に利用されることから、利用に応じて料金をいただくことを提案します。

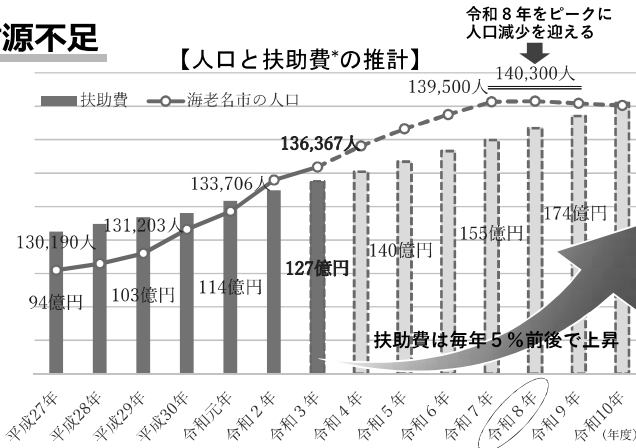


## 懸念される今後の財源不足

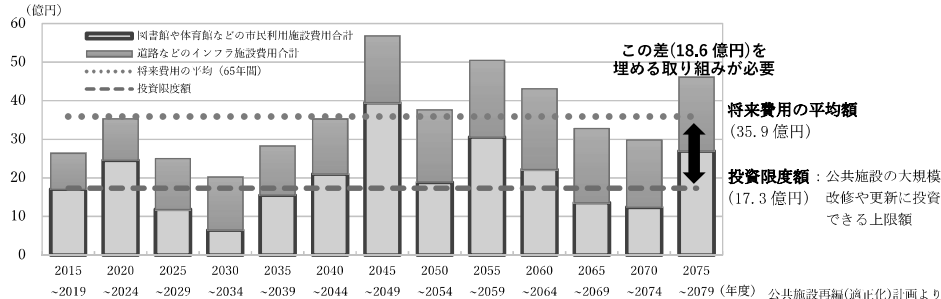
- 人口減少などに伴う税収減や少子高齢化に伴う扶助費\*の増加により、財源不足が見込まれます。
- 施設の大規模な改修や更新などが必要となる一方で維持管理費の増加が予測されます。
- 将来費用に対して、1年あたり18.6億円の不足が予測されます。

扶助費\*：生活に困っている人や子育てをしている世帯、障がい者などの生活を社会全体で支える経費

【人口と扶助費\*の推計】



<参考：将来費用の試算結果と投資限度額の比較>



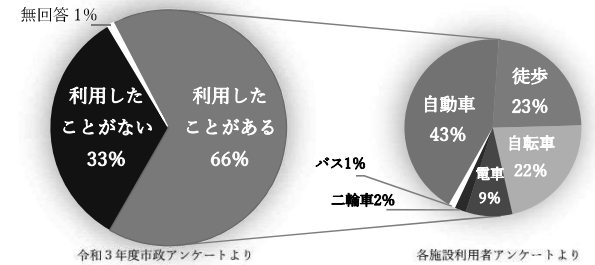
# 駐車場有料化の3つの目的

## ① 受益者負担\*の適正化

- ◎有料化対象施設を1施設でも利用したことがある方は**66%**です。
- ◎このうち、公共施設への移動手段が自動車の方は**43%**です。

受益者負担\*：サービスにより利益を受ける特定の方に、受益の範囲内で、使用料や手数料などを負担していただくこと

【施設利用の有無と交通手段】



### ポイント

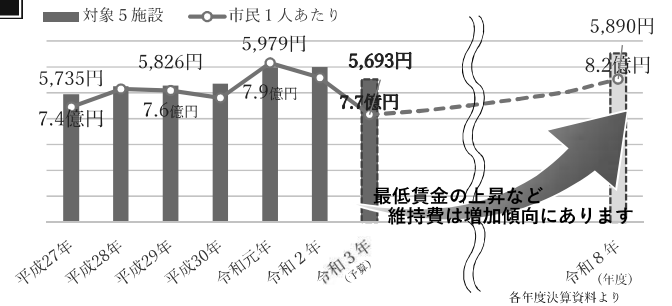
駐車場を利用したことがある方は、**10人中、3人**と試算されます

➡ 選択的に利用される施設は「**受益者負担の原則**」の考え方から負担をお願いする方針です

## ② 負担の公平性の確保

- ◎対象5施設の維持管理には、**年間約8億円の公費(税金)**を投入しています。
- ◎施設を使わない方も等しく**年間約5,700円**を負担していることとなります。
- ◎維持管理費のほかに、平成27年度以降で**8億円以上の修繕費**などがかかっています。

【維持管理費(指定管理料)の推計】



### ポイント

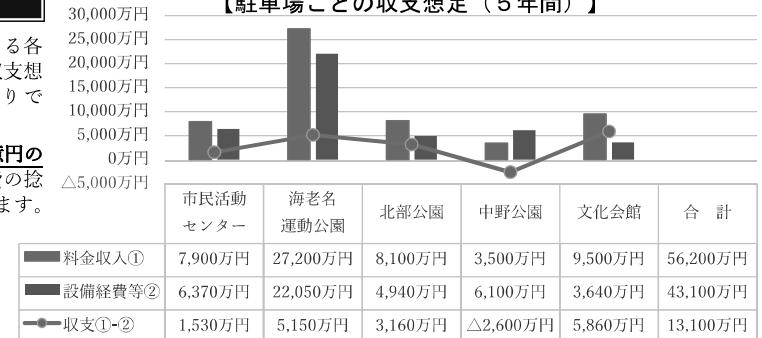
施設を使わない方も **年間約5,700円** を負担しています

➡ 駐車場利用者が利用料を負担することで「**負担の公平性**」の確保を進めます

## ③ 財源の確保

- ◎駐車場有料化による各施設の5年間の収支想定は右図のとおりです。
- ◎合計で**最大約1億円の収益**(維持管理費の捻出)を見込んでいます。

【駐車場ごとの収支想定(5年間)】



### ポイント

駐車場利用者が利用料を負担することで、「**財源の確保**」を行い維持管理費を削減します